

Structure Kansai No 13

'86・2

新春をむかえて

放談“コンプレックスを大切にしよう”

久徳敏治

スーパーペリオリティ・コンプレックス（優越感）の反語としてインフェリオリティ・コンプレックス（劣等感）という言葉があるが、コンプレックスと言えば劣等感と通じるほど劣等感が強調されている。人には色々と弱みをもつもので、その弱みを超越してこそ、一つの人格なり、生き様を構築できるといつても過言ではない。身近な例では、持病の一つに悩んでいる人は、それ故に健康を全うするというパラドックスさえある。

ちなみに、この世で偉業をなしどうた人々はどちらかのコンプレックスを抱いており、それが人種的であれ、身体上であれ、社会的内容であれ、自分の努力では克服できない宿命的なものであればあるほど、人生への闘争の情熱として無意識に作動するものであるという。古代ギリシャ人が既に悟っていたように運命といふある絶対的な力に屈従して生きる他に人間には生きる道のないことを、このような桎梏をベートーベンに、ゴッホに、フロイドの生き方やその偉業にかいま見るにつけても、コンプレックスを大切にしたい。

技術を楽しんでは

青柳 司

「あけましておめでとうございます。今年もよろしく」いつもせかせかしてて何か趣味でもと思って、去年はプレイヤーを買ったのですが、一曲も聞かずじまいでした。一方、遊びはというと酒と競馬、新春早々金杯で乾杯と率先のよいスタートとなりました。私はいつも遊びばかり、そろそろ何か趣味をつくらねばと思っていますので、私にむきそうな趣味がありましたら、御紹介下さい。今年で新耐震設計法が発令されて5年、パソコンの発達と馴れによって手の内に入ったと思います。構造設計の範囲は非常に広いもので、この5年の空白を取りもどすべく技術委員会の各分科会も積極的に

活動したいと思っています。毎年申しておりますが、会員であれば誰でも参加できますし、複数の分科会に出席されても結構です。構造技術の研究と堅苦しく考えないで、情報の入手という面でも大いに価値があると思います。日頃、仕事に追われているのはお互様です。懇親・懇談とともに技術を楽しんではどうですか。

構造懇は期待の方向に進んでいるのか

能勢善樹

初心に思いが至るもの、正月のせいでしょうか。J S C A ができた当時の、ある感動ともいべきものは、何だったのか、初めて全国規模で構造家が集まることができる。集まって何ができるのか、何をしなければならないのか。わからないうながらも、それぞれの期待を持って集まつたと思うのです。そして、今、どうでしょう。期待どおりとは云えないにしても、期待の方向へ進んでいるか、考えてみたいものです。構造設計にたずさわっている共通はあっても、その職場、立場によって期待する所は初めから違っていて当然です。にもかかわらず、結集して力をつけて行くことの必要性に誰もが賛同して集まつた事実。

立場の異なる事が短所にならぬよう、利点を生かすようにしたいものです。期待はずれと思える事があつても、総意を慮りながら確実に歩を進めていると、私は思っています。一部の人にはまかせず、会員が夫々期待する所にむかって、発言し活動するようにしなければと、思いを新たにしています。

新春に想うこと

真塚達夫

大阪で今春から構造法令専門者が生れる。5階以下高さ20m以下の建物は確認申請に構造計算書の添付を要しないことになる。構造家にとって技術力もさることながらモラルが最も要求される。

昨年のメキシコ地震での被害は、立派なコードがあり、充分守られ設計されたとしてチェックなしで建築許可され、現

場で鉄筋が「テキーラ酒」に化けて構造物が弱体化したのも一因と聞く。（昔の日本も配筋検査後に鉄筋を抜いていたと聞く。）

アラブ最大の都市エジプトでも地震や地盤、地滑りもないのにアパートやビルが次々と倒壊しているという。6階建の細い柱の設計なのに4階上乗せして崩れ落ちたアパート等、ビルのオーナーや工事関係者が違法など意に介さずどんどん増築し、住民達の神経もまた図太いと云う。（サウス・チャイナ・モーニングポスト紙）

「教養のないものは金儲けに走る」と云われる反面「教養のある人は金持ちに多い」のも事実である。構造家が金持ちになれるることは稀れであろうが、教養とモラルは構造家の技術以前の必要条件である。

新春雑感

樋口元一

新年になると小学生の頃の書き初めが思い出されるが、最近は年賀状を作成するワープロに人が集まり、I C の需要を高める時代となった。この人気はワープロが漢字の処理をうまく出来る様になった事が大きな要因になっていると思われる。事実我々の構造設計の分野でも漢字処理能力をコンピュータに要求する様になって来ている。漢字に関心を持つ人はまだ少ないが、客観的に見ても漢字の持つ情報量の豊かさ、面的構成による表現効率など欧米でも比を見ないすぐれた文字である。漢字の取扱が処理技術の進歩によって容易になり、漢字ばなれを防ぐことは大変喜ばしく、又豊富な情報が存在すれば、これを伝える為に必要な手段の進歩を促すものとも考えている。

さて関西支部と共にStructure Kansai も4年目を迎えた。支部の活動も年と共に盛んになって来て居り、支部報もこれに応え益々の充実を図るべく、広報委員は努力を重ねて居るが、会員の皆様方の一層の御支援を御願する次第である。

メキシコ地震とトラテロルコ住宅団地

八木大児

昨年9月20日の朝刊に報ぜられたメキシコ地震から5ヶ月の月日が経ようとしている。その間に被害状況や原因についての考察が新聞、雑誌に多く報告されている。従ってそれ以外の事柄で私のみが体験出来た記事をつづりたいと思う。それはトラテロルコ団地の被害についてである。メキシコ在住邦人からの最近の手紙によると、その団地の住民は当施設の建設主体である政府を相手取って所要の安全性を備えた住棟の復興を求めて訴訟裁判中との事である。

日本大使館員の紹介で現場を訪れた私がまず驚かされたことは住民達が自治会に保管されている構造図と、実際建物の照合を自らの手で行っていた事であり、日本の耐震設計技術の優れているのを高く評価し、その調査を日本政府の手で行ってほしいと依頼された事である。その文面は紙面の関係で省略するが、依頼文の表書きを下に示す。

住民と一緒に調査したのは、RC造14と21階建である。架構形式は図-1、2に示す如く、両棟共柱とフラットスラブの組合せによるラーメン構造である。この建物は20数年前に建設されている。^{*2}メキシコ市に耐震規定が作成されたのは1957年であるから、その適用を受けており規定に照合して、設計ベースシヤー係数は0.07と考えられる。図面に基づいて略算を行ってみたが、いずれも耐震規定レベルの性能は認められたものの、実

状の強震を作用させた場合のシミュレーションまでには至っていない。現在応用地質株式会社にて今度採れた地震波の解析中であるので、整理出来次第応答解析を行ってみたい。

今回、被害要因の一つに手抜き工事によるものが指摘されているが、当団地の住棟については、設計耐力をはるかに上回る地震力が作用して被災したものと思われる。すなわち、耐震設計の基準となる市の規定自体に難点があったと考えられる。

全体として規定値の2~3倍の強震が作用したことを考えると、避難命令棟が多数あるとはいえ、全壊(写真-1)半壊棟が数棟で済み得たのは設計施工共妥当な線でなされていたものと推察される。傾きながらも持ちこたえている姿(写真-2)を見て感じた事は、強大な地震のエネルギーに力一杯立ち向って耐えながら住人の命を守った有機物的存在の様に思え、構造技術者として、ねばり強い建物の設計の必要性をつくづく感じえた事が今回の調査の最大の収穫であったと思う。

今度、大きな地震の調査に参加して感じた事を二、三書きとめてみると、調査はできるだけ早く現地に赴き、取り片付け前の状況を見ることです。それに現地の人々と接触を保って当該情報を得ること、又被害をあまり受けていない建物も調査する事が必要です。それは、なぜ被

害を受けなかったのか、今後の耐震設計の参考になるからです。

最後に、団地の自治会長から日本国宛の嘆願書を手渡された時考えたことであるが、日本もメキシコに対して莫大な資金援助をしている。それも必要ではあるがそれにも増して地震国日本の立場から地震研究のデーターの公開、耐震設計の専門家の人材派遣やその資材の輸出等ではなかろうか。このことは在メキシコの音楽家黒沼ユリ子さんの指摘にもある。

幸い、昨年末建設省からの技術協力チームが派遣され、被災度の判定や、補強設計等、効果的な技術援助が実りつつあるのは喜ばしいことと思う。と共に一日も早い復興を祈念して筆をおきます。

(平田建築構造研究所)

写真-1 ▷

ヌエボレオ
ン棟(14階)
南ブロック
棟、写真右
側の北ブロ
ック棟は倒
壊した。



団地自治会
長より日本
国宛の調査
嘆願書の表
書

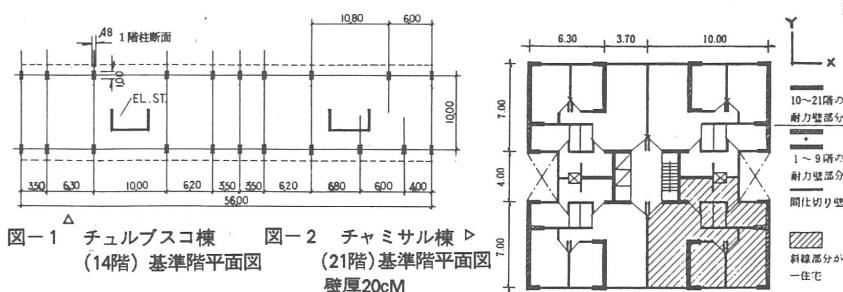


写真-2
図-1の住棟

写真-3
図-2の住棟

※1. 市の北部に立地、労働者階級の家族約8万人が住むマンモス団地。7、14、21階建住棟が林立

※2. 1957年のメキシコ地震直後、耐震強化の目的で作成された暫定規定、その後1977年に再規定が出た。



技術委員會報告

基礎分科会

昨年8月に基礎構造に関するアンケートを実施しました。内容は会員諸氏が実務を通じて経験してきた問題点や具体的な事例に関するものです。調査結果の分析・検討をおこない実務運営に役立つ参考資料としてフィードバックすることが目的です。設問はI；回答者のプロフィール、II；経験上の問題点の所在（項目別問題経験頻度）（図-3）、III；問題点の具体的な事例（図-4）で構成されています。配布は関西支部の会員個人（一部会員外含む）を対象に176通、うち回収数55通（回収率31%）でした。現在、分科会メンバーが分担して調査結果を検討中です。本稿はその中間報告です。

図-1は回答者数の実務経験年数別、勤務先別グラフです。経験年数10～19年の範囲が約50%、勤務先別では設計事務所が60%を占めています。図-2は設問IIの項目別集計結果で全体、経験年数10～19年、20年以上にわけてグラフ化しました。支持層の決定、地盤調査、直接基礎の基礎底深さおよび支持力の決定、杭基礎の杭種・工法の選定および支持力の決定などの項目に問題経験が多いことが示されています。（文責加藤）

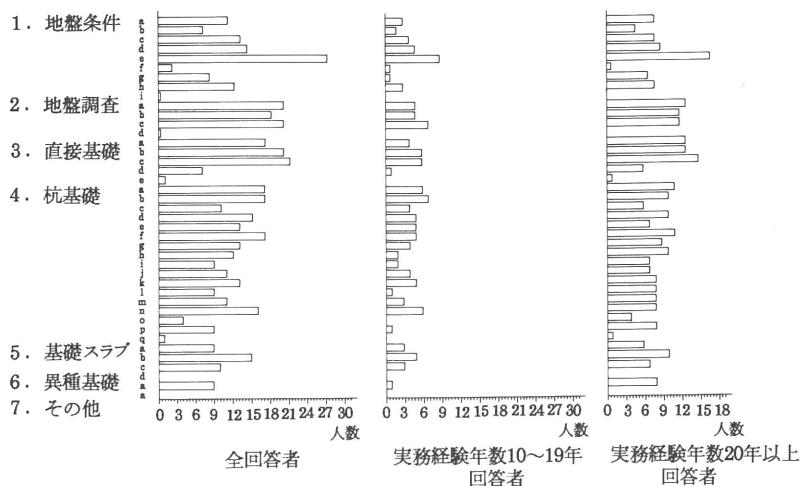
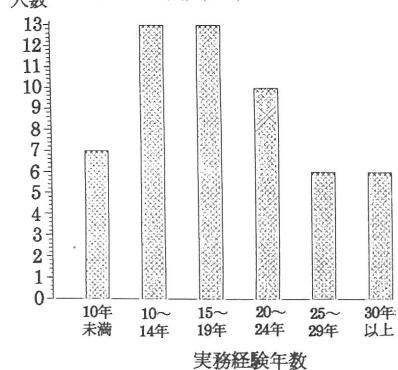
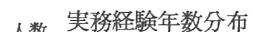


図-2 項目別問題経験頻度（設問IIの集計結果、4回以上経験した項目のみ）

分類	項目 No.	項目 目	分類	項目 No.	項目 目
1. 地盤・地盤 条件	1 - a	沈下性状・沈下量把握	4. 状 基 礎	4 - a	状況選定
	1 - b	液状化の可能性の有無		4 - b	坑工生産選定
	1 - c	地震収容の検査、工法選定		4 - c	地盤の面面設計
	1 - d	地下水位の決定		4 - d	状況処理
	1 - e	支持層の決定		4 - e	坑頭箇所選定
	1 - f	鉄筋安定解析・施工		4 - f	支持力決定 (N値)
	1 - g	鋼管接続部への影響		4 - g	正の摩耗力評価
	1 - h	施工計画の適否		4 - h	負の摩耗力 (NF) 評価
	1 - i	その他 ()		4 - i	引張抵抗の評価
2. 地盤調査	2 - a	調査項目選定		4 - j	水平力と相決定
	2 - b	調査深度決定		4 - k	挿体設計用応力
	2 - c	調査本数決定		4 - l	坑頭突起状の取扱い
	2 - d	その他 ()		4 - m	辺り式の取扱い
3. 直接基礎	3 - a	形式選定 (独立、B、ペラ etc)		4 - n	地盤反力係数とHの評価
	3 - b	支持力決定 (N値、φ値)		4 - o	剪効果の評価
	3 - c	基礎底盤き決定		4 - p	表荷試験の必要性
	3 - d	浮基礎の検査		4 - q	その他 ()
	3 - e	その他 ()	5. 基礎ステップ	5 - a	板厚
				5 - b	ヘリあき
				5 - c	配筋
				5 - d	その他 ()
			6. 具體基礎	6 - a	具體基礎混在
			7. その他の ()		

図-3 アンケート項目(設問II)



勤務先	数
設計事務所	100
建設会社	20
製造会社	10
官公庁	2
試験所	1
学校	1

図-1 回答者プロフィール
(設問Iの集計結果)

基礎構造に関するアンケート調査 回答用紙(3)

設問Ⅲ 基礎構造に関する問題点の具体例について
基礎構造に関して設計上、施工上、監理上、申請上の問題点あるいは疑問点を具体的に記述して下さい（図解歓迎）。

記述内容が設問IIのどの項目に該当するかを項目Noで記入して下さい。

必要に応じて記述内容についての建物の概要を最下欄に記入して下さい。

(1件／枚、複数例ご回答の場合はこの用紙をコピーねがいます)

項目・No	1-f, 4-k	いざれかを〇で囲む 設計、施工・監理、申請
斜面地に建築する場合		
1.長期土圧、地盤時土圧及びすべり(円弧)の設計に必要な地盤調査の調査項目及び調査範囲等について。 2.杭基礎が必要な場合の設計用外力の取り方について。 3.杭基礎の場合で、フーチングレベルに大きな段差が生じる場合の水平力分担の決め方。 4.施工方法(掘方)と受換土圧採用の可否。		
建設地()市、町	用途()	填 满 地 下()階 地 上()階
構造種別 RC、SRC、S、PC	沈 基 础 (杖 植)) 直 接 基 础

図-4 アンケート用紙（設問III）

●東京の動き

- 1/17メキシコ地震災害調査報告会

於大成ホール

- 1/31新年賀詞交換会

於建築会館ホール

●支部の動き

- 業務・報酬研究報告会

11/21 13:30~17:30

於大阪電々会館

司会 寺戸芳久支部事業委員

1.挨拶 矢野代表

2.調査研究の経過報告 能勢副委員長

3.業務基準（案） 渡辺委員

4.報酬算定方式（案） 前谷委員

5.業務量に関する

アンケート結果 浜田委員長

6.今後の課題と展望 能勢副委員長

7.自由意見交換

8.意見のまとめ

Structure No.16掲載の調査研究報告を資料に討議が重ねられました。関心のある方はご一読下さい。

・現場見学会

12/7住友生命・ホテルニューオータニ大阪およびMIDツインタワー
参加者 38名

12/21大阪産業大学11号館 関西PC研究会と共に催 参加者 53名

・12/17広報委員会—Structure Kansai

No.13の企画その他

・技術委員会の活動

鉄骨-12/4

PC-10/1, 12/4

PC-7/19, 9/20, 10/18,

11/29, 1/14

基礎-10/29, 12/2

コンピューター-9/25, 11/26

面白と何怜



出江 寛

万葉では何怜と書いてオモシロと訓ませていた。何は可、怜は憐で、自然を愛でいつくしむ感動の表現が何怜であった。この何怜は、アハレ、ウマシとも訓まれそれが更に追求され発展していったのが、世阿弥がその『風姿花伝』の中でいう「花とおもしろきとめづらしきと、これ三つは同じ心なり」のおもしろの世界である。更に『風姿花伝』の引用である。

ただ、花は、見る人の心にめづらしきが花なり。しかれば、花伝の花の段に、「物数を極めて、工夫を尽くして後、花の失せぬ所をば知るべし」とあるは、この口伝なり。されば、花とて別にはなきものなり。物数を尽くして、工夫を得て、めづらしき感を心得るが花なり。「花は心、種は態」と書けるも、これなり。

今建築界はポストモダンばかりであるが、アメリカのそれにしても日本のにしても表面的操作による面の面白が目につき過ぎる。

花（おもしろ）と特別あるものでないといふ世阿弥に言わせれば、ポストモダンとて「別にはなきものなり」であろう。思うに伝統のない米国と違い我がポストモダンとは、明治以降のモダンをもう一度伝統に戻す事ではないだろうか。伝統の持つ精神を継承しつつ現代の素材・技術で以て新しいモダンを創造してこそ、面の面白でない、真の何怜のポストモダンである。

創る



長田正雄

40年近く構造設計をしてきて、昔に比べ近頃は随分仕事がし易くなったと思う。大抵の構造計算は電算処理され、設計資料も豊富で随分楽になってきた。それなのに時たま満たされない思いになることがある。管理社会の体制下で建築を創るという実感が薄れて欲求不満を感じるのであろう。

工学というのは原則的にトライアルアンドエラーである。超高層ビル建設の技術も完全に完成されたわけではなく、中小地震の洗礼を受けて徐々に確立された技術となるが、この試練を恐れて新しい試みをしなければ技術の進歩は止まってしまう。どんな小さな試みであってもトライアルして、その成否に全身をかけて始めて創るという喜びにひたれるのではなかろうか。

新しい設計基準や審査制度が技術水準を確保する目的で次々と制定される。その必要性は充分認めるのであるが、新しい試みを考えるものには余りにも煩雑であり、安易に基準が作られすぎて充分な試練を経たのであろうかという印象が避けられない。当世の経済最優先の社会では之等の基準を満たし、審査に合格することのみで満足するのが、最も効率的であると評価される。あまりにも情けないことである。

我々は今後、名作五重塔の棟梁のような真摯な懼れと創びを感じることは出来ないのであろうか。

●事務局よりのお知らせ

- J S C A 関西構造家賞の選考が近付きました。会員の推薦あるいは応募でも結構です。是非お出し下さい。選考資料は業績の内容を説明できる資料(頁数、サイズは不問)とその梗概および推せんの場合は100字程度の推せん文を添付して下さい。期間は3月1日~3月31日です。送り先は支部事務局です。
- メキシコ地震調査報告会を実施します。

日本建築学会の調査団に参加された先生方をお招きして生々しいお話を頂く予定です。3月28日(金)建設交流館にて総会と併せて報告会を開催致します。

■ 定例研究会(PC構造設計・施工のチェックポイント)を4月4日(金)13:00より建設交流館にて開催します。

■ 関西支部総会を3月28日13:00より建

設交流館にて開催致します。後日議案を添付して会員各位にお送りします。

■新しい入会者をご紹介下さい。

会員の皆様の周囲で入会ご希望の会員、準会員、賛助会員をご紹介下さい。また会員外の方で入会ご希望あるいはお問い合わせは支部事務局(川崎建築構造研究所内TEL 06-231-3112)までお気軽にご連絡下さい。

住友生命ニューオータニを見学して

瀬川輝夫

土曜日の遅い昼食の後、慌てて飛び乗ったタクシーが森之宮で左折すると、車窓には大阪城公園の木立の緑が流れ、大阪城ホールの低ライズな屋根が見え隠れして来る。見学する二つの建物、ホテルニューオータニ大阪の柔らかなフォルム、その背後にTWIN21が、カリッとした冬空にメタリックな光を放ちながら急速に車窓を埋め始める。説明会場最後尾の席に滑り込んだ時、両建物の構造設計者、株式会社建設設計の内田部長、棚橋主管の説明はすでに始まっていた。会場はほぼ満席。

第一の見学建物、ホテルニューオータニ大阪は、大阪ビジネスパーク(OBP)地区の南端中央部に、大阪城を背面にする形で計画されたシティホテル。客室と

なる5~18階の高層部分は、継ぐ開かれたU字型平面をしている。純S造ラーメン構造の架構は、この種の平面形にありがちな偏心を配慮して、各方面の振動性状が等しくなるよう計画されている。SRC造を主体とする5階までの低層部分は大略100m角の平面形であるが、高層部が南北部分に偏在するため、剛強なRC造耐震壁により振じれ剛性の確保に努めている。見学に入る。軸体工事はほぼ完了し、最上階レストラン部に鉄骨スケルトンが見られるのみである。大阪城を望むため、窓の腰高を低く押えた客室を見学し、アトリウムを経て建物背面に出る。客室PCa外壁パネルに打込まれた白いタイルに映える陽光が眩しく見えた。

歴史を紐解く

所在地	大阪市北区梅田町1
設計者	久野建築事務所(第1期) 株式会社大林組(第2, 3期)
竣工	第1期1941年(17,951m ²) 第2期1958年(29,379m ²) 第3期1966年(50,127m ²)
規模	地下1階、地上11階、塔屋3階
軒高	52.88m
構造種別	S造、SRC造
基礎・地盤	井筒基礎(Φ2.8~3.8m) 直接基礎、支持層GL-25m
外装	二丁掛タイル

構造概要

国鉄大阪駅正面の阪神百貨店の建物である。地下2階は阪神電車のターミナルに連続している。昭和12年に着工し、当初は全敷地にわたり地上8階、地下2階建の鉄骨造建築として工事が進められたが、太平洋戦争の開始により建方が終っていないかった鉄骨をすべて軍用に供出し、地上4階、一部6階迄で工事を打ち切り使用されたのが第1期工事である。その後

大阪神ビルディング

第2期、第3期の工事を経て当初の計画が実現されることになるが、この間に技術的にも様々な歴史が刻みこまれている。第1期の当初の設計では、構造は山型鋼を主とする鉄骨構造であり、柱梁のコンクリートは計算外である。またリベット接合であるため、複雑な仕口部では、応力の伝達と施工性の確保が難しいが手馴れた設計となっている。第2期以降では溶接々合が使用され、鋼板によるBOX柱、I型梁などの形式が採用され、梁貫通タイプの仕口が設計された。又第2期工事から資材節約のため、コンクリートの耐力も柱、梁の設計に組込まれ、S造とSRC造が併存している。なお第3期工事では、既存分への地震力の低減のため、天然軽量粗骨材(古江産)のコンクリートが使用された。当時例の少ない軽量コンクリートの現場調合に苦心の跡が記録されている。なお軽量コンクリートの強度は120kg/cm²であった。

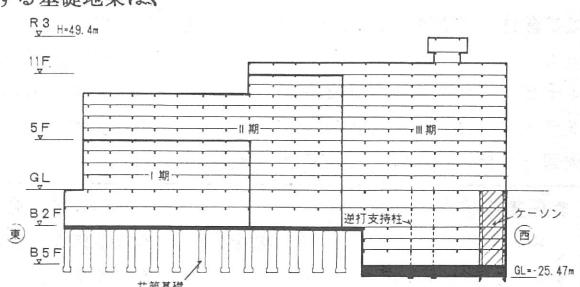
梅田の軟弱地盤に対する基礎地盤は、

第二の見学建物、TWIN21は今春の竣工を前に仕上げ工事中。我国最大規模のツインタワーが大阪城に平行する形で配置されている。地上38階、高さ150mの高層部は一辺30mの正方形平面で、センターコアを配した典型的な鉄骨ペアリング構造である。未広がりとなる低層部では5階全体をトランクファーガーダーとし、耐震壁を主耐震要素とするSRC造ラーメン架構としている。展望台となる最上階から大阪市域を望む。上町台地北端に位置するOBP街区は、難波宮、大阪城と、古くから大阪の文化・経済・情報の核となっていたところ。外に出ると、アトリウムの屋根から端正なツインタワーの谷間を冬の風が駆け抜けていた。

樋口元一

第1期、第2期共現場打コンクリートウェル圧入の井筒基礎であり、阪神電鉄の土木技術陣も参画した無公害工法であった。第3期工事では敷地の最大限の利用のため地下5階とし、建物外周の1スパン分を5基のニューマチックケーソンとし、内部4本の鉄骨柱をウェル工法で先行し、この両者によって地下1階床から順次下階床を支持、築造する逆下り工法により地下5階の軸体を施工した。深部の土水圧や施工段階毎の応力検討等、コンピュータの無い時代の設計者は繁忙であったが、自由で豊富な発想を抱いていた。

主筋 6-22φ 5-12φ	3F 柱 主材 11Ls-130×130×12 WL-12
主材 4Ls-150×150×15 2Ls-150×100×12 2Ls-90-90×10	
3F 柱	



●会員の紹介

棚橋 秀光

(勤) 勝日建設大日本社

(趣) テニス、スキー、音楽



デザインに憧れて建築の道に入った人は多いが、構造設計に憧れて、建築に進んだ人は少ないと聞く。その背景には構造家に対する社会的地位や評価が低いこと、プロフェッショナルとしての魅力に乏しいと思われていることがあげられる。当懇談会の活躍により、いつか構造家に憧れる学生が増えてくるようになれば、会の使命のひとつを果たしたことになるのではと思う。

北條 稔郎

(勤) 竹中工務店大阪本店

設計部構造課

(趣) テニス



構造安全性の確保は、地震国日本において、建築設計上重要な位置を占めている。ところが、欧米建築に比べ“骨組のデザイン”が少ないとと思う。建築全般の幅広い知識をもとに、構造骨組が全体とよく調和した設計を行なうように努めて行きたい。

第4回構造家懇談会関西支部

ゴルフ親睦会 報告

曇り空ながら、ますますのゴルフ日和といったコンディションの中で、上記コンペが11月7日行なわれました。

当日は30名とこれまでの最高の参加者に、京都大学の六車先生も出席され、大変盛り上がった会となりました。この会も4回目となりますと、参加者も打ち解け非常に和やかな雰囲気で競技が行なわれました。

成績は右表の通りで、宮野さんが9アンダーと好成績でしたが、初参加ということで2位に遠慮して頂き、優勝は2名の方が3アンダーの同ネットで並ばれましたが、同ネットの場合、高齢者上位という取り決めにより、真塚さんが栄冠を勝ち取られ、伊藤さんは3位に入賞されました。今回の平均ストロークは103.1でした。次回は61年5月21日(水)に伏尾ゴルフクラブで行なう予定です。初参加の方も初心者の方も歓迎致しますので、奮って参加して下さい。尚この会についてご意見、ご希望がございましたら、馬瀬までご連絡下さい。

(馬瀬芳知)

ニヤピン 東コース 馬瀬、吉田 南コース 六車、山森

ドラコン 東コース 梅木 南コース 藤内

次回ハンディ 真塚 11、宮野 28、伊藤 21

川本 道明

(勤) 西宮市役所 建築審査課

(趣)



新耐震設計法が施行されてから数年がたち、その間に数多くの指針や解説、取扱いが出されました。それらの数値に振り回されたり、数値合わせに苦労したりしていましたが、最近になって、『もっと、構造の基本にもどって考えなければならないんじゃないのか?』と思うようになってきました。

荒川 宗夫

(勤) 竹中工務店大阪本店

設計部構造課

(趣) 囲碁、スキー



東北生まれの東北育ちですが関西での年数の方が多くなりました。構造技術者としてはベテランの年代になりましたが計算に没入するだけでは発展は望めません。今年は技術者としての視野と幅を広げるべく自分自身を叱咤激励する始動の年にしたいと考えています。

山本 豊弘

(勤) 勝昭和設計構造部

(趣) 魚釣り(ここ2、3年川で)



世の中、スピードアップ、多種多様化、情報氾濫、技術の高度化、その中で経済性の追求、建物の、骨組のグレードを測定するいい物差しはないものか。



	氏 名	東コース	南コース	GROSS	H.D	NET	RANK
1	真塚 達夫(東畑建築)	43	41	84	15	69	優勝
2	宮野 槩三(オリエンタルコンクリート)	46	53	99	36	63	2位
3	伊藤 孝(伊藤構造)	45	48	93	24	69	3〃
4	安田 光世(安田建築)	51	40	91	21	70	4〃
5	本多 孝武(日建設計)	41	46	87	15	72	5〃
6	平見 殖(丸五基礎)	47	48	95	23	72	
7	三好 裕司(ニニオンシステム)	55	53	108	36	72	7位
8	山口 和成(松尾橋梁)	44	48	92	18	74	
9	西座 広昌(豊南製作所)	48	48	96	22	74	
10	吉田 博史(ニニオンシステム)	51	53	104	28	76	
11	川村 紘一(久保田鉄工)	60	53	113	36	77	10位
12	塙家 正三(高田機工)	52	57	109	31	78	
13	馬瀬 芳和(馬瀬構造)	42	43	85	7	78	
14	犬飼 一夫(村野森建築)	54	49	103	25	78	
15	関本 重雄(金森藤平商事)	52	47	99	20	79	15位
16	広沢 武雄(新日鉄)	46	47	93	14	79	
17	長田 正雄(長田建築)	50	52	102	22	80	
18	梅木 信正(住金物産)	43	44	87	7	80	
19	山森 功雄(電気化学)	52	44	96	16	80	
20	俣野 博(竹中工務店)	61	56	117	36	81	20位
21	渡辺 博(新日鉄)	51	52	103	22	81	
22	徳永雄一郎(オリエンタルコンクリート)	52	66	118	36	82	
23	須賀 好富(キンキ構造)	46	52	98	14	84	
24	松浦 英一(日本コンクリート)	64	51	115	30	85	
25	戸内 貞男(武智工務所)	52	47	99	13	86	
26	小島 明(片山鉄工所)	57	68	125	38	87	
27	六車 黒(京都大学)	52	48	100	13	87	
28	丸岡 義臣(竹中工務店)	62	62	124	36	88	
29	中島 久(川崎重工)	66	57	123	28	95	B.B
30	尾崎 和彦(黒沢建設)	60	75	135	36	99	

●編集雑感

ストラクチャーカンサイも13号を発行するにいたりました。

しかし号を追うごとに、広報委員もその取り扱い内容の抽出、選択に苦慮致しております。

会員皆様の情報提供、要望なども今後とも多いに掲載したいと思いますので、広報委員まで、ご一報下さい。(広報委員)